令和4年度佐倉市指定管理者審査委員会現地見学記録

日時	令和5年3月22日（水）午前9時45分～午後4時40分	
場所	佐倉老幼の館・老幼の館学童保育所 佐倉市志津学童保育所 佐倉市北志津児童センター・北志津学童保育所 佐倉市志津児童センター 佐倉市第二・第三西志津学童保育所 佐倉市西志津学童保育所 佐倉市大崎台学童保育所	
出席委員	八木直人（委員長）、櫻田孝（副委員長）、室谷利子、吉光孝一	
施設所管課	こども保育課	室岡主査、玉重主任主事
事務局	資産経営課	渡部課長、橋本副主幹、飯塚主査、金田主任主事

1 現地見学

- ・令和5年度の審査対象となる児童センター及び学童保育所の見学を行った。
- ・各施設において、施設の基本情報、設置目的、経緯、利用状況、管理運営状況等について施設所管課から説明の後質疑。

<質疑・意見等>

（○：委員質疑 ◎：委員意見 →：施設所管課・指定管理者回答）

（1）佐倉市臼井老幼の館外6学童保育所の概要説明

○資料において、学童の対象学年が1～3年、1～6年と施設によって異なっている理由は。

→王子台、間野台の2校は学校内学童であり、利用児童も多いので低学年を優先し、高学年は臼井老幼の館学童を利用しているため。

○どのくらい的人数が臼井老幼の館学童に移動してくるのか。

→間野台小から33名、王子台小から14名。

○定員数を見ると、1～3年生はそのまま臼井老幼の館学童には上がれないの

か。

→4月時点で間野台学童に入りきれなかった児童は臼井老幼学童に通ってもらっている。

○臼井老幼学童は37㎡しかなく、手狭では。

→臼井老幼学童は定員35名のところ現在47名が通っているため、本来和室が学童保育所であったがホールを利用するなどやりくりして運営している。

○待機児童の定義とは。ニーズに合わないという理由で当初からエントリーしていない潜在的なニーズを把握しているのか。

→利用の申込をしているが、入所ができない人としている。潜在的なニーズは捉えていない、あくまで申請された数のみである。

○民間の学童に児童が流れることは無いのか。

→市内に民間学童は3カ所あるが、臼井エリアに民間学童はないため流れることはない。

○民間学童は送迎が無く自力での通学なのか。

→その通り。

○入所選考は抽選か。

→入所する児童の学年、父母の勤務形態など条件ごとに点数があり、点数が高い順となっている。

～臼井老幼の館児童センター・臼井老幼の館学童保育所

○「老幼」という名前がついているが、世代間交流はあるのか。

→コロナ禍により減少はしているがイベント等を行い、世代間交流を図っている。

○地域の方のサークル活動は午前中に行い午後が学童利用しているのか。

→コロナ前はサークル活動と学童で利用調整を行っていたが、今はサークル活動としての利用はさせていない。

○庭がきれいに整備されているが、地元に貸出しているのか。

→コロナ前はグランドゴルフで貸出していたが、現在は行っていない。

○コロナ禍が明けた後には、世代間交流を条件として地元やサークルに貸出を再開するのか。

→世代間交流は条件とはしていないが、自発的に交流が図られている。

○図書室の選書は施設独自で選んでいるのか、それとも学校と合わせているのか。

→学校と合わせることはなく、利用者のニーズを聞いて入替を行ったり、夏休みは読書感想文推薦図書を置いたりしている。

○保育室のテーブルに設置されている衝立の設置など運営方法は各指定管理者に委ねているのか。

→基本的な対策を周知し、それ以外については各指定管理者で対応してもらっている。衝立は濃厚接触者調査対応のため設置している。

○保育室の机は固定なのか、イベント時に動かしたりするのか。

→長期休暇中は朝から机を設置したレイアウトだが、普段は日中は児童センター仕様で机を撤去し、夕方に学童用に設置し常にレイアウト変更をしている。

○コロナ対応により人員は増やしたのか。

→状況により増員するときもある。

○勉強の支援は行っているのか

→指導はしていない。辞書は揃えておりヒントをあげる程度。

○ロッカーには私物を置いておくのか。

→防災頭巾、筆記具入れなどがおいてあり、登園した際にランドセルを置く。

(2) 佐倉市北志津児童センター外8学童保育所の概要説明

○資料にある一時保育事業とはどのような制度か。

→利用登録をしていない人が急遽預けることができる仕組みで、市内では和田学童、弥富学童、内郷学童の3カ所のみで実施している。

～志津学童保育所

- 体育館内に設置されている学童保育所は他にもあるか。
→市内に3か所あり、志津の他には青菅学童保育所、今年4月に開所する第二寺崎学童保育所がある。

- 体育館内学童というのは、保育室を拠点として体育館アリーナもいつも使用しているのか。
→基本的には保育室を使用している。

- 体育館アリーナと自由に往来ができるのか。
→自由ではなく、時間を決めて全員で移動している。

- 体育館以外の場所も自由に使えるのか。
→時間を決めて全員で移動してグラウンドを利用することもある。

- 外遊びをしたくない児童はどうするのか。部屋に残りたい子もいると思うが。
→本を読みたい子もいるが、基本的に全員移動なので体育館アリーナに行く場合は、持って行って読んでも良いことにしている。一部の児童を残すことはしない。

- 体育館を利用する団体もいると思うが、利用調整はどうしているのか。
→学校と調整し、曜日ごとに時間を決めている。利用時間は1日30分で団体利用が始まる17時までしか利用できない。

- 体育館ではどのような遊びをしているのか。
→ドッジボールやサッカー、バスケットボール、縄跳び、バドミントンなど。

- 体育館やグラウンドを使用することは市ではなく指定管理者が決定するのか。
→学校と調整して指定管理者が行っている。

- 学童内の1日のスケジュールは決まっているか。学校のスケジュールが変わることもあると思うがどのような対応をしているのか。
→基本となる時間割は決まっており、保護者にも伝えている。下校の時刻に合わせて学童の時間割を調整し、都度調整している。ホワイトボードを用いて児童に周知している。

- 保護者への連絡は都度行うのか。
→保護者へ変更の都度の連絡はしておらず、口頭か入口にあるボードに掲示

している。訓練などは事前に知らせている。

○体育館やグラウンドを使用した際に事故があった際の責任分担はどうか。
→学童側で対応することとなる。

○昼食もこの場所でとるのか。昼食やおやつは各自持参するのか。
→その通り。早帰りや1日保育の際はお弁当を持参してもらっているが、お弁当の代わりに給食を注文することもできる。

○お弁当を忘れた児童への対応はどうか。
→職員がコンビニで調達するなど、臨機応変に対応している。

○おやつはどのように管理しているのか。おやつを持参させない家庭はあるか。
→保護者に依頼し、1週間分を持参してもらい、保育室で管理している。おやつを食べさせない家庭もあるが、その児童はおやつの時間は読書などをしている。

○1～6年生までいて、運営側が2名体制ということは、班は学年が混在しているのか。
→4, 5人で1班とし、8班体制になっている。特に班長はなく、当番が号令かけなどを行う。メンバーは2カ月に1回程度班替えを行っている。

(3) 北志津児童センター・北志津学童保育所

○児童センターは誰でも自由に出入りできるのか。
→コロナ以降は先着順の予約制とし、乳幼児は15組まで、小学生は20名までとしている。空きがあれば飛入りでも受け入れている。

○コミュニティセンターを利用する団体との交流はあるか。
→地域ボランティアの方と将棋や読み聞かせなどの交流はあるが、利用団体との交流は行っていない。

○市立図書館のシステムと連携しているとのことだが、図書室の選書はどちらが行っているのか。
→選書は指定管理者が行っている。図書室に無い本でも市内の他の図書館にあればリクエストを受付けられる。

- 外遊びの場として、中庭や大ホールも借りることができるのか。
→中庭は児童センターが使用している。大ホールはコミュニティセンターへ予約申し込みをして使用している。

(4) 志津児童センター外7学童保育所の概要説明

- 利用料が無料の児童センターと有料の学童保育所でサービスは何が違うのか。
→学童は放課後に保護者がいない児童を支援するサービスで、預かりがあるため費用が発生し、保育園と同様に就労等の入所の要件がある。児童センターは利用者の制限なくどなたでも受け入れるサービスである。
- 第二上志津学童は対象学年が1～2年生となっており、定員に余裕がありそうに見える。なぜ2年生までなのか。
→3年生を含むと定員を超えてしまうため、2年生までとしている。高学年が通う上志津学童保育所も近いのでこのような設定とした。
- 上志津学童対象の3～6年生と、第二西志津対象4～6年生はどこに通うのか。
→第二上志津学童に通っていた1～2年生は3年生以上になると上志津学童に通う。第二西志津学童に通っていた1～3年生は4年生以上になると第三西志津学童か西志津学童に通っている。
- 利用者は定員に収まっているのか、待機児童はいないのか。
→令和4年4月の時点で、西志津小学校区学童で20名の待機者が出たため、9月に第三西志津学童を拡張して定員を増やした。
- 1～3年生は西志津、第二西志津、第三西志津のどこに通いたいかわかるのか。
→基本的には希望制であるが、現在第二西志津学童は2～3年生、第三西志津学童は1、4～6年生に分けている。
西志津学童は、1～6年全てを対象とし、学校敷地外のため高学年を想定していたが、実際は保育園敷地内併設のため、低学年の希望もある。
- 同じ建物で第二西志津、第三西志津に分ける必要があるのか。分かりづらいのでは。
→国の基準で支援の単位が40人で1単位となっているため、市としては1学童40名程度の定員とし、適切な職員配置を行い保育の質を保持したいと考えている。

- 中高生の児童センターの利用はあるか。
→利用している。テスト休みの時などは中高生の利用も多い。

～志津児童センター

- 図書室は出入り自由なのか、インストラクターは置いていないのか。
→特にインストラクターは配置していない。
- 児童センターの利用対象者は。
→18歳未満の子供とその親。
- 中高生と小学生の交流はあるのか。
→特にそういった場を設けることはしていないが、自然とそうなる場面はある。
- 乳幼児と中高生が同じ場所を利用することについて、安全確保はどうなっているのか。
→一緒の場面もあるが、乳幼児は保護者が一緒にいること、職員が見ていることなどから特に危険な状況は起きていない。

(5) 第二・第三西志津学童保育所

- 拡張したのは施設ではなく定員ということか。
→どちらも拡張をした。
- 特別支援が必要な児童はいるのか、その場合配置している職員で対応できるのか。
→特別支援学級の児童が入所している。職員数を増員して対応したり、民営の放課後デイサービスなどもあるので、支援センターと相談しながら保護者に選択してもらっている。
- 6年生が少ないようだが需要が少ないということか。
→遊びたい相手が学童に通っていない、塾などの習い事などがあって高学年になると通う人数は減ってくる。

(6) 西志津学童保育所

- 保育園の園庭利用があると思うが調整はできるのか。
→新型コロナウイルスの影響もあり、時間をずらすよう調整している。
- 6年生まで受入可能となっているが、現在3年生までしかいないのは何か制限をしたのか。
→特に制限はしていない。過去に利用していたことはある。
- 外遊びの頻度は。
→高い。子どもは毎日外に出たがる。
- 志津保育園に通っていた子が希望すれば西志津学童へ通うことができるのか。
小1の壁対策として良い事例だと思う。
→希望することはできる。
- 保育園から小学校に上がった時に、学童に入れないことはあるか。
→現在、待機児童はほとんどいないが、寺崎小学校区のみ待機あり。

(7) 南部児童センター外8学童保育所概要説明

- 今回の公募には第二寺崎学童も含まれるのか。
→含まれる。第二寺崎学童は、1～3年生を想定しているが応募状況によっては1～2年生になることも考えられる。
- 大崎台学童は3月時点で定員30名のところ31名受け入れている。待機児童が14名(3年生:1名、4年生:10名、5年生:2名、6年生:1名)とのことだが、第二寺崎学童を開設しても高学年の受入先が足りないのではないか。第二寺崎学童の目指すニーズはどこなのか。
→第二寺崎学童の増設は現行の待機児童対応ではなく、潜在ニーズに対応したものである。
- 寺崎小学校区は今後も待機児童が増えていくのか。
→児童数の推計はあるが、待機児童数については不明。登録児童の利用頻度等を見ながら、定員を増やすことも検討していく。
- 入所の決定は市と指定管理者のどちらが行っているのか。

→指定管理者が行っている。

○定員を超えた場合の入所はどうなっているか。

→定員を超えた場合であっても、登録児童の利用頻度を確認し、可能であれば定員を超える受入も行っている。

○児童数の増加に対して、今後の対策は何かあるか。

→第二寺崎学童の整備以降、今のところ新たな整備の予定はない。

◎学童保育所等の保育施設が充実すれば、佐倉市のイメージアップにもつながると思う。

◎5年先を見越した対応を考えないと課題を先送りにしては、乗り切れないのではないか。

○空き家の活用などはできないのか。

→建物だけではなく遊び場の確保も必要なため難しい。